

情報提供による周遊行動の変容効果について

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 高橋 千佳

論文要旨

桂川・宇治川・木津川の三川が合流して淀川となる三川合流域周辺は、観光資源が点在している地域であり、平成29年3月に、地域振興の拠点となる施設が三川の合流部に整備された。

しかし、左右岸を結ぶ公共交通が少なく、特に右岸側から拠点施設間のアクセス手段はマイカーに限られていた。そのため、拠点施設へのアクセス確保、左右岸をつなぐ公共交通網の補完、拠点施設を軸とした周遊観光の移動手段の提供を目的に、乗捨て型レンタサイクルが実証実験の位置付けで導入されたが、利用者数が伸びず、域内の周遊行動促進効果が十分に発揮されなかった。

上記課題を踏まえ、乗捨て型レンタサイクルの認知度の向上、周遊観光の促進を目的に、マップによる情報提供を行った結果、一定の効果を確認することができた。

キーワード：地域振興、情報提供、周遊観光、自転車、レンタサイクル

まえがき

京都府と大阪府の境界は山崎地峡と呼ばれ、桂川・宇治川・木津川の三川が合流して淀川となる箇所（以下、三川合流域）であり、古代から東西を結ぶ交通の要衝であった。

現在は高速道路や複数の鉄道線が密集し、人やモノの往来が激しい地域であるが、そのほとんどが東西方向の通過交通であり、特に河川の左右岸の人の往来は非常に少ない状況である。

平成29年3月、この場所に京都と大阪、左岸と右岸の人の交流を促し、三川合流域の地域振興の拠点となる施設が整備された。

1. 地域の現状

拠点施設は河川公園の管理施設として河川空間内に整備されたため、特に右岸側の最寄駅からは距離が離れていた。

右岸側から拠点施設までは、公共交通の運行路線や運行本数が少なく、アクセス手段はマイカーしかない状況であった。

また、拠点施設の周辺地域に観光資源が点在しているが、近隣の京都市内や宇治、伏見と比べて、観光資源の集積度が低く、それらを結ぶ公共交通網が十分に発達していないこともあり、周遊観光行動が盛んとは言えなかった。

2. 現状の課題

公共交通網が少ないことから、左右岸から拠点施設までのアクセスと、三川合流域内の周遊観光を行う移動手段と

して、平成29年3月から平成30年3月まで、左右岸で相互乗捨てが可能なレンタサイクルを実証実験の位置付けとして導入された。

しかし、レンタサイクルの認知度が低く、利用者数がない状況である。また、周遊に必要なガイドツール（周遊マップ、誘導サイン等）や三川合流域の魅力や周遊行動のインセンティブとなる情報コンテンツが不足している。

公共交通の補完となる乗捨て型レンタサイクルを事業として継続していくには、利用者を増やし収益性を改善する必要がある。

そのため、レンタサイクルの認知度をさらに高めると共に、周遊に必要なガイドツールや三川合流域の魅力を伝える情報発信が必要である。

表-1 平成29年4月から平成30年1月までの
レンタサイクル利用者数

貸出地点	利用者数(人)	うち乗捨て利用者数(人)	1か月当たりの利用者数(人/月)	乗捨て利用率(%)
A地点	1,650	6	165	0.41
B地点	141	15	15.7	10.6
C地点	92	6	11.5	6.5

※A地点の利用者数が他地点より多いのは、従来から市内向けの観光レンタサイクル貸し出し拠点として認知されているためである。

3. 対応策

レンタサイクルを利用した三川合流域の観光周遊行動を促すことを目的に、鉄道駅付近のレンタサイクル窓口、観光資源や周遊モデルコース及びパンやスイーツ等を手軽に購入できる店舗を紹介したポタリングマップを作成し、マップによる情報提供を行う社会実験を実施した。

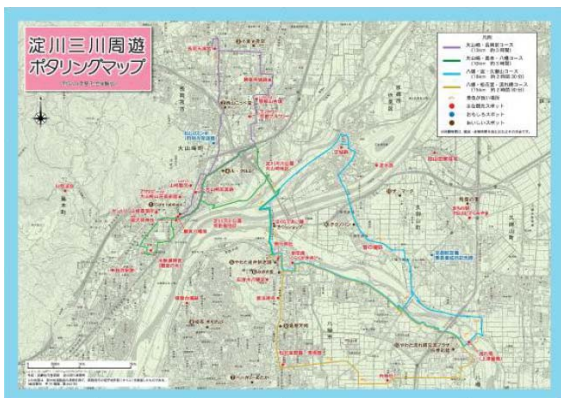


図-1 ポタリングマップ

また、ポタリングマップによる情報提供と併せて、SNSによる情報拡散と周遊行動のインセンティブの提供を目的とし、マップに掲載した3店舗以上で購入した商品の写真をSNS(フェイスブック、インスタグラム等)に投稿した方に記念品を提供する「ポタリング・キャンペーン」を平成29年11月～平成30年3月までの期間実施した。



図-2 ポタリング・キャンペーンチラシ

ポタリングマップの配布場所として、周辺自治体、京都駅や地元駅の観光案内所、地元商工会、自転車店、キャンペーン協力店舗等で配布した。

4. 調査概要

周遊行動の変容を計る調査方法としては、駅等の観光行動の起点である3地点で調査モニターの協力を依頼し、GPS データロガーを使用して動線を記録し、前述の対応策の実施前後での動線の比較を行った。

調査対象者は徒歩又はレンタサイクル利用者の観光客とし、各地点1日当たり10サンプルとした。

調査時期は、平成29年6月と11月の2回実施し、各季平日4日間、休日4日間の計8日間ずつ実施した。

1回目の調査結果を踏まえて、周遊行動の課題抽出と対応策の実施を行い、2回目の調査で対応策の実施による周遊行動の変容効果を測定した。

表-2 使用機器

機種	HOLUX M-241	
本体サイズ	32mm×30mm×75mm	
重量	63g(単三電池含む)	
GPSチップ	MTK(メディアテック)チップ	
GPS精度	水平2.2m、高度5.0m	
ログ記録容量	100,000点	

5. 実施結果

調査結果の中から、今回は、レンタサイクルを利用した三川合流域の観光周遊行動効果を計ることを目的に、レンタサイクル利用者の周遊動線に着目し、結果を抽出した。

調査対象者の大半は徒歩であり、レンタサイクル利用者のサンプル数は少なかった。

(1) 第1回目調査(春季調査)

ポタリングマップ配布前の春季調査の結果をみると、右岸側の動線は、JR山崎駅からビール工場や、長岡京市にある長岡天満宮までを走行している。



図-3 右岸側のレンタサイクル利用者の動線
(春季調査)

(N=1)

左岸側の動線は、流れ橋を目的地としているサイクリング利用者が多く、木津川、桂川に沿って、京都八幡木津自転車道を走行している。

春季調査では左右岸共に、兩岸を跨いだ周遊行動はほとんどみられなかった。



図-4 左岸側のレンタサイクル利用者の動線
(春季調査)

(N=4)

(2) 第2回目調査(秋季調査)

左岸側の動線は、春季調査時ではレンタサイクル利用者の目的地のほとんどが流れ橋であったが、ポタリングマップ配布後は左右岸を周遊し、ポタリングマップに掲載した店舗まで走行する観光客の動線がみられ、行動範囲の拡大に影響を与えることが確認された。



図-5 左岸側のレンタサイクル利用者の動線
(秋季調査)

(N=6)

(3) 結論

動線調査の結果より、ポタリングマップの配布によって、行動範囲の拡大がみられた。

また、ポタリングマップ作成にあたりご協力頂いた店舗にアンケートを実施したところ、顕著な売上増加には繋がらなかったものの、自転車利用者が手軽に食事をする事ができるパンなどの商品を扱い、かつ周遊モデルコース上にある店舗で来客数の増加が確認された。

よって、マップを主な媒体とする情報提供により、地域内の観光周遊行動に一定の行動変容効果が得られることが分かった。

あ と が き

マップによる情報提供により、行動範囲の拡大に効果が得られたことや、周辺地域の店舗で来客数の増加が確認されたことから、今後も地域振興に向けた周遊観光促進のため、レンタサイクル利用者のニーズに合った情報提供を継続的に実施し、レンタサイクルの利用率向上に向けたインセンティブを与える仕組みを整えることが重要となる。

また、今後は、インセンティブを与える仕組みを整えると同時に、周辺地域の様々なイベント時にレンタサイクルの存在をPRするなど、レンタサイクルの認知度向上に向けた周知方法の検討が必要である。